

家畜衛生だより

令和4年9月号

紀北家畜保健衛生所

電話 073-462-0500

紀南家畜保健衛生所

電話 0739-47-0974

紀南家畜保健衛生所 東牟婁支所

電話 0735-58-1481

消毒について～渡り鳥飛来シーズンに備えて～

農場内の消毒は、伝染病を予防するうえで重要な対策です。しかし、消毒薬の使用方法を誤れば十分な消毒効果を得ることができません。消毒薬の特性を把握し、正しく使用することで、高病原性鳥インフルエンザや豚熱、口蹄疫等の家畜伝染病を予防しましょう。

【消毒効果に影響を与える要因】

消毒効果は、様々な要因の影響を受けます。

下記の点に注意し、消毒を実施しましょう。

①消毒対象物の汚れ

消毒対象物（長靴や衣類）が有機物（糞、血液、羽毛など）で汚れている場合、消毒の効果が弱まります。水洗いをして汚れを落としてから消毒しましょう。

②消毒薬の濃度

消毒薬は、適用希釈濃度範囲があり、それ以外の濃度で使用しても効果が強まることはありません。消毒薬ごとの適用希釈濃度を守って使用しましょう。

③消毒薬の量

消毒薬は、消毒対象物と十分に接触する必要があります。消毒薬の量は消毒対象物が十分浸る量を用意しましょう。

④消毒薬の温度

消毒薬は、温度が低くなると急激に効果が弱まります。気温の低くなる冬季には、消毒薬を保温しましょう。また、消毒薬が凍結する地域では、噴霧器等の中で消毒薬が凍結すると故障の原因となりますので、不凍液を添加しましょう。

【消毒薬の効果範囲・使用対象】

消毒薬は、病原体や使用する対象によって異なります。

下記の表を参考に、目的・用途に合った消毒薬を選択しましょう。

(1) 各消毒薬の効果範囲

	一般細菌	結核菌	芽胞菌	真菌	ウイルス エンベロープ有	ウイルス エンベロープ無	原虫
アルコール製剤	○	○	×	○	○	△/×	×
アルデヒド製剤	○	○	○/△	○	○	○	△
逆性石けん製剤	○	×	×	△	△	×	×
両性石けん製剤	○	○	×	△	△	×	×
ヨウ素剤	○	○	△	○	○	○	×
塩素剤	○	△	△	○	○	○	×
フェノール類 オルソ剤	○	○	×	△	△	×	○
過酸化水素	○	○	○	○	○	○	×
消石灰	○	○	×	○	○	○	○

○：有効 △：適用希釈濃度範囲内の高濃度、長時間で有効 ×：効果なし

(2) 各消毒薬の使用対象

	手指、皮膚	粘膜	金属	非金属	環境
アルコール製剤	○	×	○	○	△
アルデヒド製剤	×	×	△/○	△/○	○
逆性石けん製剤	○	○	○	○	○
両性石けん製剤	○	○	○	○	○
ヨウ素剤	○	×	×	×	×
塩素剤	△	△	×	○	△
フェノール類 オルソ剤	△	△	△	△	△
過酸化水素	△	△	○	○	△
消石灰	×	×	×	○	○

○：使用可 △：適用希釈濃度範囲内の低濃度で使用可 ×：使用不可

(表：鶏病研究会報54 巻3号「養鶏施設で行われている消毒の種類と機能」の表に追記)